

野菜の作業 冬～春期にかけての品目確保と来年の生産に向けての準備をしましょう！

種まき	定植（植付け）	栽培のポイント
・ホウレンソウ ・二十日ダイコン ・コマツナ ・シュンギク ・エンドウ ・ソラマメ など	・タマネギ ・イチゴ など	【露地イチゴの定植・管理の方法】 露地栽培では、晩生種（宝交早生など）を用い標高により5月中旬～7月上旬の収穫を見込みます。 定植後の活着や肥効が悪いと花芽の発達が遅れ、出蕾が遅れたり着花数が少なくなってしまうので注意を払いましょう。 栽植密度は株間30cmを標準とし、大苗では疎植、小苗では密植とし加減します。また、条間20～25cmの2条植えとし、a当たり600株前後を目標とします。 定植は、あらかじめ苗床にかん水をしておき、老化葉は摘除し根鉢を十分付けて深植えとにならないよう親株側のランナーとは逆方向の花房側を通路に向け定植します。定植後は活着するまで十分かん水し、活着後、チッソ主体の追肥（0.3～0.5kg/a）を行います。越冬までに生育の進んだえき芽は摘除し主茎1本にします。併せて光沢の無い葉柄のつけねが緩んだ下位葉や老葉を取り除きます。 年内は寒さに加え、乾燥が続く凍寒害を受けやすくなるのでかん水と敷きわらを行います。かん水はうね間かん水でもよく、1畝20～30mmを目安とします。（稲ワラは6～7cmを目安に。） 3月下旬～4月上旬の芽が動き始める頃には摘葉と摘芽をしてチッソ成分で0.5～1.0kg/aの追肥を行ってください。
	収 穫 ・ハクサイ ・ネギ ・サトイモ ・ダイコン ・ニンジン ・チンゲンサイ ・長芋 など	

花の作業

●パンジー・ビオラの花壇苗づくり

は種・育苗方法には大きく分けて2通りありますが、今回は「セル成型育苗」方法について記述します。（もう一つはバラ播き箱育苗です。）セル成型トレイは288穴のものをを用い（花き専業農家から不要なものをいただいても良いと思います。）、育苗用土は、酸度矯正・肥料添加済みでピートモス主体の「セル成型育苗用土」を必ず用いる。

（土主体の箱育苗用土は用いない。）

まず、トレイに育苗用土を満たし、各マス毎に2mm程度のは種穴（くぼみ）を明け、1粒づつは種する。は種後、種子が隠れる程度に育苗用土をかける。その後、清浄なビニール・角材などでプールを作り、底面から給水させる。（給水したら速やかに抜いて種子の腐敗等を防ぐ。）十分給水したら発芽・育苗施設（ハウス等）へ移動し、乾燥を防止するために新聞紙を1～2枚被覆する。（特に過乾燥には注意する。）小まめに観察し絶対に乾燥させないようにし発芽が始まったら速やかに新聞紙は取り除き徒長させない。

なお、発芽適温は15～20℃です。（ちなみに、生育温度は5～20℃です。）

育苗中は、必要に応じ追肥を行うが、化成肥料（10-10-10）の場合水道で1,000～1,500倍に溶かし上澄みをジョウロ等で追肥する。ポット上げは、本葉が2～3枚位の時にポット（3号ポット）に用土を8分目まで入れ植え穴を作り「子葉」が隠れないように仮植し、かん水を十分行う。

仮植直後は30%程度の日よけを行い萎れを防ぐが、根付いてからは太陽光線を十分あてて徒長させないように管理し、良質苗づくりに心がけてください。



難防除病害対策

●「うどんこ病」防除のポイント

うどんこ病は、葉の表面全体がなんとなく白くなり、次第に濃くなってうどん粉をまぶしたような白い粉を生じ、症状が進み葉の全面が覆われるようになると光合成が阻害されたり、養分を吸収されるので生育不良になり、野菜では食味の低下、果実では肥大しない、花が咲かないなど、ひどい場合は枯れ上がってしまいます。 胞子は風で運ばれ多くの植物に発生しますが、うどんこ病には多くの種類があり様々な植物に寄生する種類もあるが、主にはそれぞれ違う植物に寄生します。また、生きている植物にしか寄生せず、しかも植物体の表面でしか繁殖しません。 寄生は比較的高温で湿度が低いと繁殖しやすいので晩春から秋にかけて発生しやすく、特に風通しの悪いところでは多発し、逆に雨が続くようなときは発生が少なくなります。

防除は、胞子が葉の表面で繁殖しはじめた発生初期をとらえて防除するのが効果的であり、密植を避けて透光性や通風しをよくするとともに、チッソ過多により植物体が軟弱化している場合なども発生しやすくなるので肥培管理を適切に行いバランスのよい肥料やりにも心がけましょう。



●「管理機」の種類とさまざまなアタッチメントの紹介

管理機のタイプ (例)



(一輪タイプ)



(小型タイプ)



(フロントタイプ)



(アタッチタイプ)



(耕運機タイプ)

管理機は、様々な農作業(機種・アタッチメントにより)に使い、大変便利で心強い農業機械です。一輪タイプではコンパクトな畝たて作業などに便利で、フロントタイプは果樹園やハウス内での作業に向いています。また耕運機タイプの高出力で重作業向きのもや様々なアタッチメントを装着することができ幅広い余裕の作業領域をこなすことのできるタイプのものもあります。さらには、大規模向きで作業能率の高い乗用タイプなど非常に多種多様な機種が用意されています。

また、管理機には様々なアタッチメントが用意されており、いわゆる耕運作業から、整地、畝たて、マルチ張り、は種、除草、中耕、防除、収穫など必要な作業や作目・規模などに応じ、管理機の種類やアタッチメントを組み合わせることができますので、管理機の更新や新たに購入したいと考えている方は、作業の種類や規模、能力などについて検討し、効率的に作業が行なえ費用対効果の高い機種やアタッチメントを選んでいただきたいと思います。



(乗用タイプ)

様々な作業とアタッチメント (例)



「畝たて作業」



「マルチ作業」



「ハウレンソウなどは種機」